

令和4年度 第1回 東北農政局国営事業技術検討会（再評価）

議 事 概 要

- 1 日 時：令和4年6月16日（木）15:10～16:20
- 2 場 所：平鹿平野農業水利事業所会議室（秋田県横手市）
- 3 委 員：北辻政文委員長、島谷留美子委員、角田毅委員、永吉武志委員、藤原絹子委員
- 4 内 容：
本年度の再評価対象である横手西部地区に係る評価結果書案等について説明し、審議を行った。
- 5 審議内容：
 - 北辻委員長
事業の進捗率が87.1%ということで、予定どおり令和6年度に事業完了できるという理解でよいか。
 - 平鹿平野農業水利事業所
工事に際し生じた仮設工法の変更などにより、事業費が増加しているが、記載している事業費は現時点の実績であり、今後見込まれるものは含まれていないため、実際の事業の進捗率はもう少し低い値となる。また、残事業のうち、河川に接続する区間については、河川協議等の調整が必要な状況にある。このため、実際は、もう少し時間がかかる見込みである。
 - 北辻委員長
事業費について、現時点で8.5%増加しているということだが、計画変更の要件はクリアできる見込みか。
 - 平鹿平野農業水利事業所
実績として既に積み上がったものが8.5%ということであり、今後のものを積み上げるともう少し増加する見込みである。

○ 北辻委員長

良かった点として、効果額が増加しているという点がある。この地域は大雨による災害が多いものと思われるが、特に災害防止効果が上昇しており、実際に、改修を終えたところでは効果が発現されているという点がよかったと思う。

○ 永吉委員

環境との調和への配慮について、「工事実施後に環境モニタリング調査を行い、魚類・底生動物・植物・鳥類において生物数に大きな変化がないことを確認している」という記載があるが、費用をかけ先進的な対策を実施したことによる成果であることから、事例として具体の調査結果を示すなど、もう少し積極的な記載を検討いただきたい。

○ 北辻委員長

環境モニタリング調査の結果として、具体的な生物名を記載することで、より説得力が増すため検討いただきたい。

○ 平鹿平野農業水利事業所

調査結果や実際の現地の状況を踏まえて、どのような表現ができるか検討したい。

○ 永吉委員

評価項目のまとめ(案)において、「排水路の改修が済んだ周辺農地の湛水被害が防止される」という記載があるが、改修により、完全にこれを防ぎ、今後一切起きないというように読み取れる。言い回しとしては、「防止される」ではなく「大幅に軽減される」等が適切と思われる。

○ 平鹿平野農業水利事業所

指摘のとおりであり、例えば雨の降り方によっても状況は異なってくる。記載内容を検討したい。

○ 島谷委員

工夫して事業を進めることで、約7億円のコスト縮減を図っているということだが、一方で、評価項目まとめ(案)では、事業費増が見込まれるため、事業費の精査を進める旨の記載がある。差し引きするとどうなのかという疑問が生じるため、もう少し丁寧な記載を検討いただきたい。

○ 水利整備課 相澤課長

記載内容について検討したい。

○ 藤原委員

評価項目のまとめ(案)において、地域の営農として、野菜、花きに触れている。現地視察では、花きの栽培は見られなかったが、十文字地域では、昔から電照菊等の栽培が盛んであることは承知している。他方、現地視察において、飼料用米や特別栽培米の栽培、地下かんがいシステムを導入した水田で地域の名産であるすいかの栽培等に積極的に取り組んでいることが見受けられた。米に依存する秋田県の農業の中で光が当たるべき取組であることから、これらの作物についても触れていただきたい。

○ 平鹿平野農業水利事業所

ご指摘のとおり、本日視察した農業生産法人では、積極的に取り組む作物がいくつもあった。記載内容については、地区全体の状況を精査した上で検討したい。

○ 角田委員

主要作物の作付面積の推移を見ると水稻も、その他の作物も変化がないという印象を受けるが、取組事例の資料を見ると、経営規模が非常に大規模であるにも関わらず、米と園芸作物に取り組んでいる農業生産法人があり、これは顕著な特徴であると思う。こういった大規模化を図る農業生産法人の展開を可能にしているのは、この事業の効果と言えるのではないか。

また、道の駅十文字は、売り上げも多く全国的に見ても優良事例だと思うが、それは地域の園芸作物の生産や加工の取組があり、これが道の駅の盛況につながっているからだと思う。

これらの効果についても、事業評価の中にきちんと記載することを検討願いたい。

○ 平鹿平野農業水利事業所

園芸作物については、全体の統計としては変化に富んだものとならないが、個別に法人の話を聞くことで様々な取組が把握できる。地区全体としてどうかという議論もあるため、事例的に触れることも含め検討したい。

○ 水利整備課 相澤課長

事業による排水改良が、湛水被害の防止や水田の暗渠排水の効果を高めるこ

とつながり、農業者が水稻以外の転作作物を心配なく作れるようになるという効果は確かにあるが、事業実施中ということを踏まえた記載としている。記載内容を検討の上、次回の技術検討会へ諮ることとしたい。

○ 北辻委員長

当事業は排水改良が目的ではあるが、以前は水が不足しており、末端まで水が届かなかったものが、排水路の改修が進むことで解消されたということも、農業生産法人の話を聞き、事業効果として言えるのではないかと感じた。また、成瀬ダムの造成により、より安定した用水確保につながるということも言っても良いのではないか。さらに、地下かんがいシステムの導入等が、例えば日本で第4位のすいかの産地を形成しているということも言っても良いのではないか。事業の効果として、これらが整理できないか検討いただきたい。

○ 平鹿平野農業水利事業所

前歴事業において用排水一体で整備したものが、改修については、たまたま用水改良が先行し、横手西部地区で排水改良を行っているという経緯がある。前歴事業で基礎ができ、だいぶ長い時間をかけて安定的に用水を供給できるようになってきた。横手西部地区としては排水改良の目的で事業計画ができていたので、事業の効果として用水改良を入れ込むことは難しいが、これまでの取組経緯があって、今があるということがわかるよう工夫することを検討したい。

○ 島谷委員

今日話を聞いた農業生産法人は、強い信念を持った経営者の方がいて、話を聞くうちに、あの方が作ったお米を食べてみたいと強く思った。この地域には、他にも頑張っている方がたくさんいるのではないかなと思う。事業と地域で頑張っている方の取り組みがシンクロすることで、この地域では豊かな作物が育っているということが滲み出るような記載内容を検討いただきたい。角田委員からも話があったが、道の駅十文字が全国的に優良であるのは、地域の農業者の力が結集した結果であり、そういった頑張りを入れ込むことで、より事業の有効性や価値といったものが見えてくるようになると思われる。

○ 平鹿平野農業水利事業所

地域には、大規模に経営している法人が数にすればかなりある。個人でやられている方もまだまだ多いが、そのような中でも、志があり、頑張っている方のところに経営が集中してきているということも事実である。

○ 島谷委員

頑張っている方を下支えする、こういった事業があるということが見て取れれば、事業の価値に厚みが増すということになるのではないかな。

○ 北辻委員長

資料に、本日、意見交換ができなかった法人の記載もあるが、複合的に238haという面積を経営する法人があり、園芸作物を大規模に取り組む法人もある。このような取組は、この事業があったからできるようになったということを記載しても良いと思う。

○ 平鹿平野農業水利事業所

例えば、大規模に複合経営する法人には、周りの農地を引き受けていったら、特に規模拡大を意識せずに自然と増えてしまったという法人などもあり、各法人、いろいろと特徴がある。確かに、大規模に経営できるようになったのは、それなりに基盤整備が進み、まとめて引き受けられるようになったという一面はある。

○ 藤原委員

取組事例として農業生産法人を紹介しているページにおいて、「作付面積」と「経営規模」とがあるが、なぜ違いがあるのか。

○ 平鹿平野農業水利事業所

例えば、作業受託の内容も様々で、法人によって様々な経営形態があるため、記載の統一は難しいが、できるだけ実態を正確に表現するよう意識して整理したい。

(以上)